

第2期中期目標期間（H25～H30年度）に係る
業務実績報告書

令和元年6月

公立大学法人島根県立大学

I. 大学の概要

1. 現況

(1) 法人名 公立大学法人島根県立大学

(2) 所在地 島根県立大学

(浜田キャンパス) 島根県浜田市【本部】

(出雲キャンパス) 島根県出雲市

(松江キャンパス) 島根県松江市

島根県立大学短期大学部

(松江キャンパス) 島根県松江市

(3) 役員の状況

役職	氏名	任期	
理事長	本田 雄一	H25. 4. 1～H27. 3. 31	
		H27. 4. 1～H29. 3. 31	
	清原 正義	H29. 4. 1～H31. 3. 31	
副理事長	小池 律雄	H25. 4. 1～H27. 3. 31	
		H27. 4. 1～H29. 3. 31	
		H29. 4. 1～H30. 3. 31	
	松尾 紳次	H30. 4. 1～H31. 3. 31	
理事	飯田 泰三	H25. 4. 1～H27. 3. 31	
		H27. 4. 1～H29. 3. 31	
	山下 一也	H25. 4. 1～H27. 3. 31	
		H27. 4. 1～H29. 3. 31	
		H29. 4. 1～H31. 3. 31	
		山下 由紀恵	H25. 4. 1～H27. 3. 31
	荒木 恭司	H27. 4. 1～H29. 3. 31	
		H29. 4. 1～H31. 3. 31	
	赤坂 一念	H27. 4. 1～H29. 3. 31	
		岸本 強	H27. 4. 1～H29. 3. 31
			H29. 4. 1～H31. 3. 31
	岩谷 百合雄	H28. 4. 1～H29. 3. 31	
		H29. 4. 1～H31. 3. 31	
平下 洋子	H28. 4. 1～H29. 3. 31		
		H29. 4. 1～H31. 3. 31	
	江口 伸吾	H29. 4. 1～H31. 3. 31	

役 職	氏 名	任 期
監事	岡田 久樹	H25. 4. 1～H27. 3. 31
	田上 尚志	H25. 4. 1～H27. 3. 31
		H27. 4. 1～H29. 3. 31
	吉本 晃司	H27. 4. 1～H29. 3. 31
		H29. 4. 1～H31. 3. 31
	丸山 創	H29. 4. 1～H31. 3. 31

(4) 学部等の構成

【島根県立大学】

(浜田キャンパス)

学 部 総合政策学部総合政策学科
 研 究 科 北東アジア開発研究科
 附置研究所 北東アジア地域研究センター
 附属施設 メディアセンター、交流センター

(出雲キャンパス)

学 部 看護学部看護学科 (平成 30 年 3 月まで)
 看護栄養学部看護学科、健康栄養学科
 (看護学部を平成 30 年 4 月に名称変更、健康栄養学科設置)
 別 科 助産学専攻 (平成 27 年 4 月設置)
 研 究 科 看護学研究科 (平成 28 年 4 月設置)
 附属施設 図書館
 附属機関 しまね看護交流センター
 (平成 25 年 4 月設置、平成 30 年 3 月まで)
 看護栄養交流センター
 (しまね看護交流センターを平成 30 年 4 月に名称変更)

(松江キャンパス)

学 部 人間文化学部保育教育学科、地域文化学科
 (いずれの学科も平成 30 年 4 月設置)
 附属施設 図書館
 附属機関 しまね地域共生センター (平成 26 年 4 月設置)

【島根県立大学短期大学部】

(松江キャンパス)

学 科 健康栄養学科 (平成 30 年 3 月まで)
 保育学科、総合文化学科
 附属施設 図書館
 附属機関 しまね地域共生センター (平成 26 年 4 月設置)

(出雲キャンパス：平成 27 年 4 月 1 日廃止)

学 科 看護学科
 専 攻 科 公衆衛生看護学専攻、助産学専攻
 附属施設 図書館

【全学運営組織】

メディアセンター、アドミッションセンター、キャリアセンター、
FDセンター、地域連携推進センター、保健管理センター、
国際交流センター

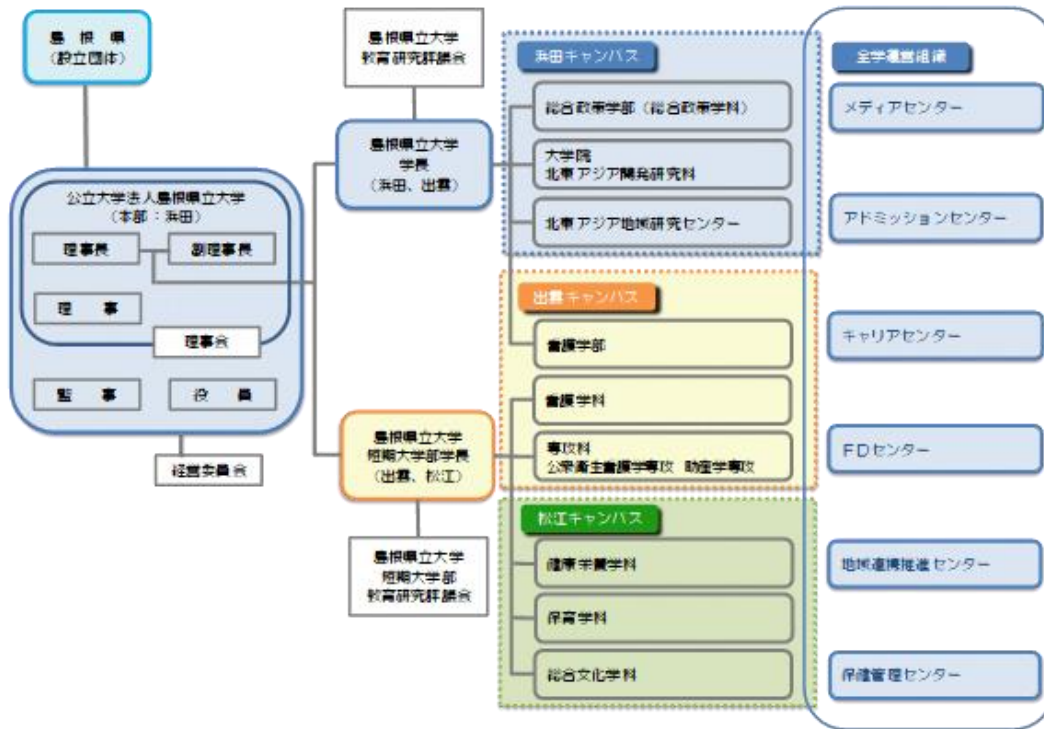
(5) 学生数及び職員数

(各年度5月1日現在。単位：人。職員数には任期付職員含む。)

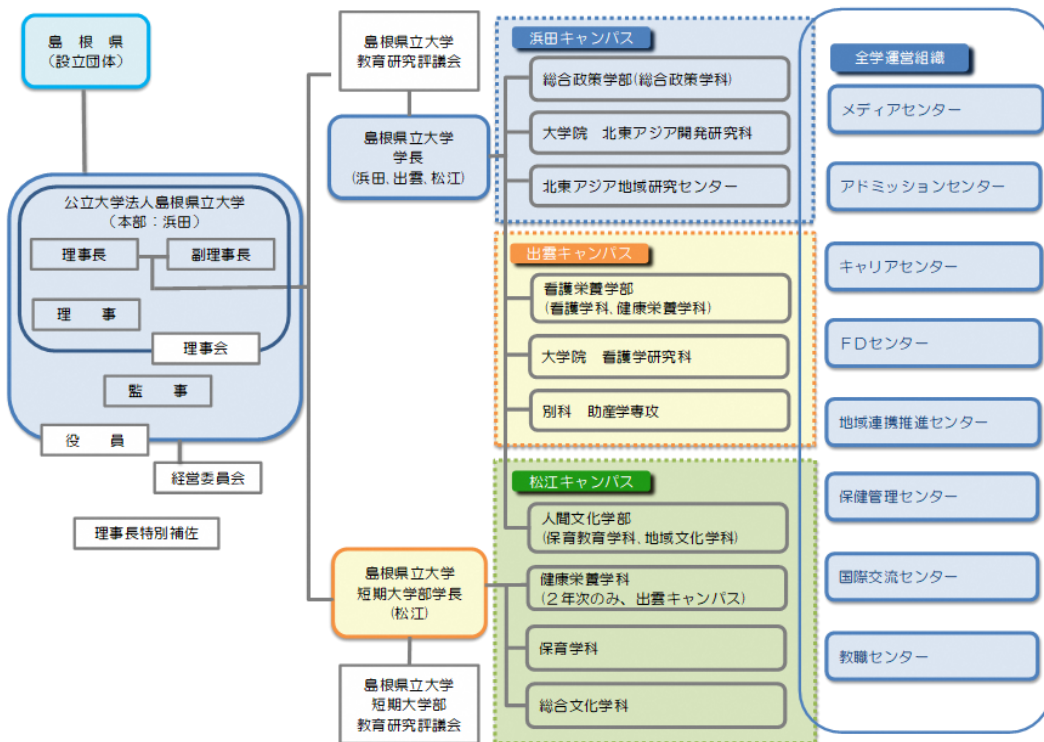
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	
全体	学生数	1,832	1,842	1,854	1,840	1,838	1,861	
	教員数	130	130	132	127	126	126	
	職員数	76	78	80	85	85	79	
島根県立大学	浜田C	学生数	1,037	1,036	999	985	987	1,009
		内、大学院生	29	36	35	38	43	37
		教員数	51	49	49	47	46	48
		職員数	43	45	48	51	51	40
	出雲C	学生数	170	253	353	352	367	409
		内、大学院生	-	-	-	5	11	12
		教員数	35	43	49	46	47	64
		職員数	16	18	18	18	18	21
	松江C	学生数	-	-	-	-	-	117
		内、大学院生	-	-	-	-	-	-
		教員数	-	-	-	-	-	31
		職員数	-	-	-	-	-	18
短期大学部	松江C	学生数	498	505	502	503	484	326
		教員数	33	34	34	34	33	14
		職員数	17	15	14	16	16	18 (再掲)
	出雲C	学生数	127	48	-	-	-	-
		教員数	11	4	-	-	-	-
		職員数	16	18 (再掲)	-	-	-	-

(6) 組織図

【平成 25 年 4 月 1 日】



【平成 30 年 4 月 1 日】



(第2期中期目標期間中における組織の沿革)

【島根県立大学（出雲キャンパス）】

- ・平成27年4月 別科設置
- ・平成28年4月 看護学研究科設置
- ・平成30年4月 看護学部を看護栄養学部に変更
看護栄養学部健康栄養学科設置

【島根県立大学（松江キャンパス）】

- ・平成30年4月 人間文化学部設置

【島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）】

- ・平成30年4月 健康栄養学科を4大化し出雲キャンパスへ移転

【島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）】

- ・平成27年4月 廃止

【全学運営組織】

- ・平成26年10月 国際交流センター設置
- ・平成30年4月 教職センター設置

2. 大学の基本的な目標

【共通の目標】

統合・法人化を契機に、法人は、大学の自主的、自律的な運営を行いつつ、さらに地域における総合的な知的拠点として、教育の質をより高めるため、以下の3つの目標を達成することを目指し、その取り組みを通じて、より魅力ある大学を作り上げていきたいと考えている。

①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学

学生一人ひとりの学ぶ意欲を大切にし、さらにそれを高めていくとともに、質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援を行い、課題探究力を有し、創造性豊かで実践力のある人材を育成する。

また、生涯学習の拠点として、社会人のリカレント教育や資格取得など幅広い多様な学習ニーズに応える大学づくりを目指す。

②地域に根ざし、地域に貢献する大学

地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材を育成するとともに、地域に知の還元を行い、地域社会の活性化と発展に寄与することにより地域と共に歩む大学を目指す。

③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学

島根県の重要な交流対象地域である北東アジアを中心とした総合的な研究を推進し、研究業績や国際貢献において世界に存在感をアピールできる大学となることを目指す。

また、北東アジア地域をはじめとする大学等との学術ネットワークの形成及び留学生の派遣・受入れを通じた交流などを積極的に行い、国際的な視野を持ち多様な価値観を認める人材の育成を目指す。

【島根県立大学】

(浜田キャンパス)

①「知的体力」を有する人材の育成

学際的・総合的な知識を備え、主体的に課題を発見・整理し、適切な解決策を提示することのできる、「知的体力」を有する人材が求められており、多様化・複雑化した現代社会において、地域的課題をはじめとする諸課題の解決に向けて主体的に取り組むことのできる人材を育成していく。

②地域からの国際化を支える知的交流拠点の形成

北東アジア地域との相互交流の中で学術研究面での拠点のひとつとなることにより、本県及び北東アジア地域が抱える諸課題の解決と発展へ向けた活動の一翼を担っていく。

③地域特性の発掘、活用による地域の発展

地域との交流を重ね、地域に根ざした教育研究活動を行うことで、地域の魅力の再発見に努める。また、それを活用することにより地域の発展を支えていく。

(出雲キャンパス)

市民的な教養を教授するとともに、看護学における高度な知識と技術を教授・研究し、深い人間愛と倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本と実践能力を身につけた専門職を育成する。また、看護学の教育研究活動を通して地域社会における健康課題を明らかにし、その改善のための研究を行い、研究成果を保健・医療・福祉分野はもとより広く社会に還元することを目的とする。

(松江キャンパス)

地域社会に根差した〈ひと〉の育成、地域の〈文化〉を活かしたまちづくりを目指す。乳幼児期・児童期の人間形成の探求、地域文化とそれを取り巻く日本文化・国際文化の探求により、地域の将来を担う若い力を育てていく。

【島根県立大学短期大学部】

(松江キャンパス)

公立短大として地域の要望に応え、また国際的にも通用し得る人材を育成し、地域の知的文化を継承し、更なる創造発展を担うとともに、学術研究活動を通じて、地域と国際社会に貢献する。

Ⅱ. 中期計画の進捗に係る中期計画期間の全体的状況

1. 法人による総括

公立大学法人島根県立大学は、平成 22 年度に制定した「島根県立大学憲章」に掲げる理念に沿い、全学を挙げて積極的に大学運営に取り組んできた。

第 2 期中期目標期間（平成 25 年度～平成 30 年度）においても、憲章の前文に掲げる「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」、「北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学」の実現に向け、第 2 中期計画とそれに基づく各年度計画を定め、取組みを推進した。

総括評価としては、後述する「2. 中期目標大項目ごとの取組みの実績」及び「3. 目標に対して未達成の取組みと今後の対応」、並びに別添「第 2 期中期計画数値目標の達成状況」の内容を踏まえ、一部の項目について改善を要する事項はあったものの、毎年度定めた年度計画を着実に実行し、中期計画を達成することができたと判断している。

2. 中期目標大項目ごとの取組みの実績

第 2 期中期目標期間中における「大学の教育研究などの質の向上」を除く中期目標の大項目に係る年度計画の評点平均値（H25-29 は島根県公立大学法人評価委員会評価、H30 は法人自己評価）の推移は次表のとおりであった。

※評価は 5 点満点

中期目標の大項目	H25	H26	H27	H28	H29	H30
社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり	4.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.17
自主的、自律的な組織・運営体制の確立	4.00	4.00	4.05	3.82	3.91	4.15
評価制度の充実及び情報公開の推進	4.00	4.00	4.00	3.33	4.00	4.14
その他業務運営に関する重要事項	4.14	4.15	4.00	3.95	3.95	3.90

上記の結果からも読み取れるように、中期目標については、ほぼ達成することができたと判断している。

大項目ごとの主な成果としては、以下の点を挙げることができる。

(1) 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

- 平成 29 年度中に新学部設置に係る国をはじめとした関係機関からの認可等を受け、目標としていた平成 30 年 4 月 1 日出雲キャンパスに看護栄養学部、松江キャンパスに人間文化学部を開設した。
- 公立短期大学に対する地域や県内高校等からの強いニーズに応えるため、短期大学部を存続することとした。
- 大学改革を迅速かつ戦略的に実行するため、平成 29 年度に大学内に改革本部を設置し、浜田キャンパス総合政策学部の改編、附置研究所の新設・見直し、全学入試制度の見直しや理事長ガバナンスの強化等について、1 回/月のペースで着実に検討を進めてきた。

(2) 大学の教育研究などの質の向上

ア 高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

- ・オープンキャンパスや高校での説明会、学生による母校（高校）訪問といった入試広報を重点的に行った結果、第2期中期計画で掲げた「県立大学、短期大学部における入学定員充足率（入学者数／入学定員）を100%以上」とする目標（中期計画数値目標）に対して、概ね達成することができた。（参照表1）

(参照表1)

各学部学科ごとの入学定員充足率（単位：％）

	H25 (H26入試実績)	H26 (H27入試実績)	H27 (H28入試実績)	H28 (H29入試実績)	H29 (H30入試実績)	H30 (H31入試実績)
浜田キャンパス						
総合政策学部	107.7	105.9	105.9	106.8	117.7	106.8
出雲キャンパス（看護学部はH30から看護栄養学部に変更。健康栄養学科はH30に設置）						
看護(栄養)学部看護学科	103.8	107.5	100.0	107.5	100.0	103.8
看護栄養学部健康栄養学科					105.0	100.0
別科助産学専攻	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	88.9
公衆衛生看護学専攻	100.0					
松江キャンパス（人間文化学部はH30から設置。健康栄養学科はH29に廃止）						
人間文化学部保育教育学科					107.5	110.0
人間文化学部地域文化学科					105.7	108.6
短期大学部健康栄養学科	105.0	105.0	100.0	60.0		
短期大学部保育学科	104.0	108.0	108.0	104.0	105.0	105.0
短期大学部総合文化学科	109.3	110.0	110.0	112.1	110.0	105.0

- ・キャンパスごとの特性に合わせたキャリア支援プログラムの展開や学生に対する就職指導の強化等により、3キャンパスとも高い就職率を維持した。（参照表2）

(参照表2)

各キャンパスごとの就職率（単位：％）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
浜田キャンパス	95.3	95.6	99.1	98.0	96.1	97.4
出雲キャンパス	99.0	95.5	100.0	100.0	100.0	100.0
松江キャンパス	95.2	97.4	98.5	97.5	98.0	98.5

イ 地域に根ざし、地域に貢献する大学

- ・平成25年度に採択を受けた「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」において、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する「しまね地域マイスター」認定制度の創設、「しまね大交流会」の開催、しまね地域共育・共創研究や浜田市及び益田市との共同研究の実施など、5カ年の採択期間を事業計画通り実施した。
- ・上記「しまね地域マイスター」制度では、「しまね地域共生学入門」を3キャンパスの必修科目として開講し、地域の現状・課題を学ぶ体制づくりを進めた。
- ・島根大学等と実施する「しまね大交流会」の開催や県内企業と連携したインターンシップの充実等により県内就職率の向上に努めたが、過去の県内高校生の入学者減少の影響により、浜田キャンパスの平成30年度卒業生において県内就職者の割合が20%を割り込む結果となった。（参照表3）

- ・「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の成果報告会として実施してきた「全域フォーラム」を発展させ、平成30年度より「KENDAI縁結びフォーラム」を開催し、地域交流の場づくりを進めた。

（参照表3）

各キャンパスごとの県内就職率（単位：％）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
浜田キャンパス	27.7	23.7	25.2	23.0	31.8	19.6
出雲キャンパス	58.9	64.0	62.0	51.2	49.4	48.5
松江キャンパス	75.0	66.7	68.6	69.7	69.1	68.5

ウ 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学

- ・平成26年4月に国際交流センターを設置し、異文化理解研修や日本語・日本文化研修を通じた交流協定大学生の受入、複数の国外大学等との包括協定締結による学生交流の促進など、学術、教育の交流を充実させた。
- ・北東アジア地域研究センターでは、平成28年度から開始した「北東アジア地域研究推進事業」（～平成33年度まで）において、本センターを含む国内6研究拠点や大学共同利用機関法人 人間文化研究機構と連携し、当該分野における国際シンポジウムを開催するなど、着実に研究を実施している。

（3）自主的、自律的な組織・運営体制の確立

- ・外部の研究資金獲得の取組について、科学研究費獲得のための研修会の開催（全学）、科学研究費申請支援サービスの委託（全学）、学内への科学研究費アドバイザーの配置（出雲キャンパス）などの体制を整備することにより、中期計画で定める目標を達成した。（参照表4）

（参照表4）

各キャンパスごとの科研費等外部資金獲得状況

	中期計画目標	H25	H26	H27	H28	H29	H30
浜田キャンパス							
人数割合(%)	35%以上	52.9	48.0	78.0	54.0	73.0	64.0
資金総額(千円)	26,000千円以上	37,966	32,095	33,194	23,988	28,913	19,173
出雲キャンパス							
人数割合(%)	20%以上	21.7	27.0	37.0	42.0	46.0	55.0
資金総額(千円)	13,000千円以上	14,165	8,148	10,085	14,209	13,131	20,354
松江キャンパス							
人数割合(%)	14%以上	39.4	15.0	41.0	33.0	37.0	26.0
資金総額(千円)	4,000千円以上	2,210	1,190	8,015	5,993	5,820	6,850

- ・予算編成作業前に事務事業の見直しを行い、課題の整理・検討結果を各年度予算へ反映させるなど、経費の抑制に努めた。

（4）評価制度の充実及び情報公開の推進

- ・島根県立大学法人評価委員会における各年度の業務実績に関する評価において遅れている点として評価されたことを踏まえて大学運営の改善に繋げた。
- ・島根県立大学法人評価委員会における各年度の業務実績に係る評価結果をホームページに掲載した。

(5) その他業務運営に関する重要事項

ア 広聴広報活動の積極的な展開等

- ・地域の声や疑問に応える大学情報の発信により、大学の見える化につなげるため、「地域と大学の交流誌」を新コンセプトに、広報誌「オロリン」の誌面・制作方法（学生中心で制作）のリニューアルを実施した。
- ・学生が地域に出かけ、制作過程から大学と地域がつながりを持つことで、地域の声を学生が直接拾いあげる仕組みを確立した。
- ・山陰中央新報への広告掲出や、日本海テレビ、山陰中央テレビにおいて テレビスポットCMを放送した。
- ・大学案内、動画、リーフレット、ポスター、ノベルティ等を作成し、広報活動を行った。

イ 施設設備の維持、整備等の適切な実施

- ・機器の故障や異常の早期発見に努め、適宜、空調修繕工事や建物の防水部分の修繕工事等を行い、施設の長寿命化を図った。
- ・松江キャンパスの新学部設置等に伴う施設整備については、計画的に実施しており、図書館新棟の建設と、3号館における渡り廊下棟（エレベータ）の建て替え及び外壁等の劣化改修が順調に進んだ。

ウ 安全管理対策の推進

- ・職員安全衛生管理規程及び情報セキュリティ対策基本計画に従い、「体制の整備／技術的な施策」、「教育・訓練」、「自己点検・監査」について、計画に基づいて実施した。

エ 危機管理体制の確保

- ・浜田キャンパスでは2つの寮の寮生を対象に、それぞれ避難訓練を実施した。また、事務職員による原子力防災訓練（情報伝達訓練）を実施した。
- ・出雲キャンパスでは全学生教職員参加で火災避難訓練を、また1年次生を対象に救命救急研修及び護身術研修を実施し、防災・防犯意識の啓発を図った。また、新入生には入学時に「緊急時対応ポケットマニュアル」を配布し、マニュアルの携帯と緊急時の対応について説明した。
- ・松江キャンパスでは、学生には「緊急連絡網・防犯護身術講習会」「安否確認訓練」「交通安全講習会」「ブラックバイトトラブル防止講習会」「マルチ商法トラブル防止講習会」を実施した。また、大学所在地の自治会との共同防災避難訓練を実施し、松江市南消防署の指導の下、東日本大震災の事例報告と緊急時の対応について講習等を実施した。併せて、危機管理マニュアルの見直しを行った。

オ 人権の尊重

- ・3キャンパスそれぞれで学生・教職員に対し人権に関する研修を実施した。
- ・キャンパスハラスメント防止委員会を設置し、学生相談員、所属相談員を配置して相談体制を整備すると共に、相談連絡窓口と相談の流れを「学習のてびき」等に明示して学生に制度の周知を図った。

カ 環境マネジメントシステムの構築・推進

- ・省エネ・節約を心掛け、消費エネルギーの削減を行った。
- ・複数の電力会社に見積もりを依頼し、電力価格を引き下げた。

3. 目標に対して未達成の取組みと今後の対応

【外部資金の獲得について】

浜田キャンパスにおいて、H28年度以降、目標金額の25,000千円を下回る結果となった。科研費公募説明会や各種外部資金の公募情報の提供のほか、H30年度より実施している科研費申請書個別支援サービスの導入、H31年度から学内競争的研究費において准教授～助手の教職員科研費獲得を支援する「若手支援枠」を設ける等により、外部資金の獲得に取り組んでいく。

【就職率】

目標期間の6年間、概ね各キャンパスとも高い就職率を維持し続けることができた。一方、浜田キャンパス総合政策学部でのH30年度卒業生における県内就職率が法人化後初めて20%を割り込む結果となった。この数字の動きは、この年度の学生が本学総合政策学部に入学者の県内高校生徒の入学割合にほぼ相応していることから、今後、全学的な入試制度改革に取り組み、県内高校生の入学率を増やす努力をしていく。

また、県内企業への就職率の向上のため、県、関係団体、産業界等との連携を強化していく必要がある。

Ⅲ. 項目別評価

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4.5	4	4	4	4	4.17	
大学を取り巻く環境の変化に機敏に対応し、地域や時代の要請に的確に応え、特色のある、学生にとって魅力ある大学づくりを推進する。	No.1	社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革を推進する	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県が策定した中期目標に対応する中期計画を、大学改革本部における検討、理事会での審議等を経て、作成した。 ・大学改革本部会議のもとに「組織改革検討部会」「財務検討部会」「研究支援検討部会」「カリキュラム検討部会」「学生支援検討部会」「入試改革検討部会」を置き、第3期中期計画の策定検討、浜田キャンパス新学部学科再編、全学入試改革、高大連携等、幅広い事項について検討・審議を進めた。 ・「しまね地域研究センター」「教養教育推進センター」「IR 室」の設置についても改革本部会議で検討し、それぞれH31.4月に設置した。 ・「総合政策学部」を国際系と地域系の2学部にも再編する基本方針を3/25の県議会総務委員会において報告した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
(2) 教育内容の充実 ア 入学者の受入れ	No. 2	ア 入学者の受入れ ・アドミッションポリシーに基づいた入学者選抜を実施するとともに、志願状況の分析や地域の意見を聞きながら入学者選抜方法の改善を図る。	[判断理由] ・各キャンパスで新入生を対象に志願動向調査を実施し、進路決定プロセス、情報源、相談相手、入学理由等様々な視点で調査を行い学内に公開した。 ・模試業者から本学入学者について、併願校情報や経年での模試成績比較資料を入手し、入学者の学力分析を行った。 ・進路指導懇談会を6月に浜田C・松江Cで開催し、県内高校進路指導部教員との意見交換を行った。						
	No. 3	・さまざまな媒体を通じた効果的な入試広報や高大連携の充実を図る。	・県内外の高校を訪問。山陰地区以外は、3キャンパス一体となった訪問を実施した。志願者の増加につなげるため、戦略的に重点エリアの学校訪問、説明会等への参加を行い、県内外へ向けた学生募集活動に取り組んだ。また県外高校進路指導担当教員を対象にした説明会を広島市で実施した。 ・県内高校との進路指導懇談会を各キャンパスでし、各キャンパスの学びの特徴や入試制度等について情報提供を行った。 ・母校訪問プロジェクトを実施し、学生の出身校への広報活動を行った。						
	No. 4	・大学院において早期履修制度、スキル科目履修制度の活用による学部と大学院の連続的な教育課程を充実させる。	・大学院においては、総合政策学部の学部生に対し、教員からの周知や履修の手引きへの掲載により早期履修制度、スキル科目履修制度の周知を行った。						
	No. 5	・韓国、中国、ロシアなどからの優秀な留学生を確保するために海外に向けた広報活動を強化する。	・大学院学生募集に係る現地説明会のニーズを把握するため、教職員が海外の関係諸大学を訪問時に現地調査を実施した。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			-	-	-	-	-	-	
イ 教育課程の充実	No. 6	イ 教育課程の充実 ・教育の実施に関する基本的な方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシー）に応じて体系的なカリキュラムを編成する。	[判断理由] ・教職課程を一元的に管理する全学運営組織・教職センターを設置し、教職センターの概要を記載したパンフレットを作成し広報に努めたほか、教職課程再課程認定申請等の事務を行った。 ・また松江キャンパスにおいてはパンフレットを作成し広報に努めたほか、教職課程再課程認定申請等の事務を行った。教職科目の再課程申請に合わせ、保育学科のカリキュラムマップの見直しを行っている。総合文化学科についても、カリキュラムマップの検証の結果、開講期の見直しを行った。						A
No. 7	・英語科目において理解度に応じた習熟度別教育をすることで、学生全体の英語力の向上を図るとともに、より高いレベルに導く。	・【浜田キャンパス】計画に基づき TOEFL 準備講座を開講し、留学予定学生の英語向上に資する取り組みを行った。							
No. 8	・教育の水準の維持と、学生の修学意欲を向上させるためにリメディアル教育の充実を図る。	【出雲キャンパス】（平成28年度まで） ・健康栄養学科において、専門科目履修の基礎となる科目「化学」「基礎生命科学」を設けた。また、授業外教育として「食ゼミ」を開催し授業の受け方・レポートの書き方など授業のための導入教育を行った。 ・リメディアル教育の充実を図るため、「栄養士スキル1」「栄養士スキル2」の授業評価等を参考にシラバスや授業内容、配布資料などの検討を健康栄養学科において行った。健康栄養学科1年次生、2年次生全員が対象の科目を受講した。							
No. 9	・入学から卒業・修了まで系統立ったキャリア教育を実施し就業力を養成する。	【浜田キャンパス】 ・1年次生必修の「キャリア形成Ⅰ」の授業を平成30年春学期に実施し、自己理解と仕事理解に向けた授業を実施した。「インターンシップ入門」の授業を開講し、インターンシップの意義とキャリア形成との関連性、インターンシップ先の探し方、ビジネスマナーを習得する授業を行った。「インターンシップ実習」の授業を開講し、オリエンテーション、現場実習、報告書および日誌の作成、報告会という流れで授業を行った。3年生必修の「キャリア形成Ⅱ」では、自己と仕事について理解を深め、自分の進路を見据えて準備を進めるための指導を行った。							
No. 10	・県、関係団体、産業界、同窓会組織などとの連携を強化するとともに、人材ニーズを把握しキャリア教育に反映させる。	・島根県が主催する島根県インターンシップ協議会へ参画し、インターンシップの実施状況について産業界と高等教育機関で情報共有や意見交換を行った。							

	No. 11	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習者を積極的に受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田キャンパスでは科目等履修生及び聴講生制度を周知するために、県内各自治体及び過去3年間に当制度を利用したことのある者に対しDMを送付し募集を行った。松江キャンパスでは各制度についての募集要項を、松江市役所、県立図書館、松江市内各公民館、島根県庁県民室等に設置するとともに、本学公式ホームページに掲載して広報を行い、聴講生を受け入れた。
	No. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職向けのリカレント講座を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を開設し、講座実施に当たり県教育庁及び島根大学と連携を取った広報を行った。また、島根県内看護職のためのキャリア支援事業を計画通り行い、受講者へのアンケートから高い評価を得た。 ・認定看護師教育課程の円滑な運営を行うために、学内教職員をメンバーとする運営会議を開催し、教育課程の計画・実施・評価を行った。

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
【県立大学学士課程】	No.13	<p>【県立大学学士課程】</p> <p>[総合政策学部]</p> <p>・社会科学と人文科学分野の学問を幅広くかつ体系的に学ぶことができるように、教育課程・教育内容・教育方法を見直し、改善する。</p>	[判断理由]						
	No.14	<p>[看護栄養学部]</p> <p>・看護実践力（コミュニケーション能力含む）を身につけるための体験型学習を推進する。</p>	<p>【総合政策学部】</p> <p>・教職課程廃止に向けて開講科目等の整理を行った。また、総合演習ローテーション廃止を決定し、次年度以降総合演習を担当する教員に対し、シラバスの記入と学生受け入れに係る面談のためのオフィスアワーを設定するよう依頼した。</p>						
	No.15	<p>・地域の保健・医療・福祉課題を自ら考え、対処する能力を育成するための講義、実習を実施する。</p>	<p>【看護栄養学部】</p> <p>・「看護学科の育成する人材像を目指した到達目標」を用いて看護学部 1～4 年次生を対象として、秋学期終了時点の H31 年 1～2 月に学年別に目標到達状況を横断的に調査した。</p> <p>・各実習前に、臨地の状況を再現した事例を用いてシミュレーショントレーニングを希望する学生が任意で展開し、4 年間のシミュレーショントレーニングプログラムについて、卒業前の 4 年次生に調査を実施した</p> <p>・「卒業までに到達すべき技術チェック表」を 4 年次生のすべての実習が終了する 11 月に実施した。</p>						
	No.16	<p>・看護教育及び看護実践の質の向上を図るため、実習施設・機関と連携し、研修会や事例検討、共同研究を実施する。</p>	<p>・学生を対象にしたカリキュラム評価を 1 月に実施した。</p>						
	No.16-2	<p>[別科助産学専攻]</p> <p>・助産実践能力の強化を図るために、助産診断技術や周産期救急の講義・演習を実施する。</p>	<p>・県内医療施設における看護研究への支援や実習指導者研修などを継続的に展開し、臨床現場との関係強化を図っている。県立病院と協定を結んで活動している「看護連携型ユニフィケーション事業」を継続して展開し、教育の充実を図った。また、県立病院看護局を対象に臨床教授任命制度を継続して実施した。</p> <p>・分娩期の異常（出血・吸引分娩）への対応、および新生児に関して新生児蘇生のシミュレーションを実施した。到達度について修了時に評価を行った結果、分娩期の異常（出血）対応に関しては 77.8%、新生児の蘇生については 100%の到達度であった。</p>						

	No.16-3	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県各地域の産科医療に対する理解や関心を高めるために、実習施設・機関と連携し教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の指導者による各施設概要等の説明会を実習開催前に開催し、授業アンケートで評価を行い、アンケート結果より、実習開始前に実施する説明会について、学生の殆どが島根県各地域の産科医療に対する理解や関心が高まったと答えている。また、実習や就職の希望先を考える上で参考となった学生もあった。
	No.16-4	<p>[人間文化学部]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携や、インクルーシブ教育に必要な専門知識や技術を習得できる科目を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必修の保幼小連携科目を開講し、保育教育学科1年次8科目を全員履修して単位を取得した。2年次に開設する卒業必修「障害児発達教育論」「インクルーシブ教育論」、履修の基礎として開設した「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」のうち、「発達心理学Ⅰ」を全員が履修して単位を取得した。
	No.16-5	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド科目など島根の文化を体験的に学び、文化を社会の中で活用していくことができる専門性と実践力を修得する科目を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化学科専門科目の「文化の体験」科目群のうち、「しまね文学探訪」「しまね歴史探訪」および「しまねのまちづくり」の3科目を開講し、フィールドワークを実施した。

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
【短期大学部短期大 学士課程】	No. 17	【短期大学部短期 大学士課程】 ・カリキュラムポ リシーに応じた学 びのロードマップ を編成し教育の充 実を図る。	[判断理由] ・教職科目の再課程申請に合わせ、保育学科のカリキュラムマップの見直し を行った。総合文化学科についても、カリキュラムマップの検証の結果、 開講期の見直しを行った。						
	No. 18	【短期大学部専攻 科】（平成26年度 まで） [公衆衛生看護学 専攻] ・専攻科1年課程 の保健師教育の特 徴を活かした教育 を行い、成果と課 題を明らかにす る。	・看護学部において、保健師教育に繋げる教育内容について実習を中心に検 討した。地域診断をもとに、住民との関わりを大切にされた保健師活動が展 開できるよう、実習環境の充実を図った。						
	No. 19	[助産学専攻] ・助産師基礎教育 の到達レベルを明 確にすることによ り、教育を充実さ せ、成果と課題を 明らか にする。	・学生による評価結果等を踏まえ、修了時の到達目標のレベルを設定し、到 達度を確認した。 ・別科助産学専攻の教育プログラム（カリキュラム）の講義および実習にお ける評価項目の原案を作成した。						
	No.19-2	・高い倫理観に基 づく看護実践力、 多職種多機関との コーディネート 力、課題に対して 論理的に探究でき る研究力を身につ けるための教育課 程を編成する。	・担当教員指導の下、フィールドワークの手法を用いた授業科目をとおして、 看護実践力、多職種多機関とのコーディネート力、課題に対して論理的に 探究できる研究力を養成した。また、学生ごとに主指導教員、副指導教員 を配置し、個々の学生に適した履修指導を行った。 ・平成30年4月より新たにウィメンズヘルス領域を追加して運営を行った。						
	No.19-3	・島根県における 健康課題に取り組 む能力を育成する ため、フィールド ワークを実施す る。	・「島根の健康と長寿」及び「専門演習」において、フィールドワークを含む 演習を行い、看護実践力、多職種多機関とのコーディネート力、課題に対 して論理的に探究できる研究力を養成することができた。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
【県立大学大学院修士課程、博士課程】	No. 20	<p>【県立大学大学院博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北東アジア地域研究センター（NEARセンター）研究員による指導を強化するとともに、同センター内の各種研究会への大学院生の参加を奨励する。 	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北東アジア地域研究センター准研究員制度を継続実施し、大学院博士後期課程の院生を准研究員に任命し、指導した。 ・「日韓・日朝交流史研究会」・「北東アジア研究会」及び「西周研究会」への院生の参加を奨励し、院生の参加があった。 ・研究助成制度等の情報を教員及び大学院生に定期的（月1回程度）にメールで情報提供した。あわせて学内掲示版システムによる情報提供を行った。 ・学会参加等支援制度について、大学院便覧への掲載、新入生オリエンテーションでの説明、研究室前へのポスター掲示等、活用実績を増やす取り組みを継続して行った。また、指導教員の研究指導に加え、博士前期課程・博士後期課程合同発表会を定期的で開催し、研究科全体できめ細やかな研究指導を継続して行った。その成果として博士号取得者を輩出した。 ・北東アジア地域研究センターにおいて、学内競争的資金制度である「競争的課題研究プログラム助成事業」及び「大学院生と市民研究員の共同研究制度」を継続実施し、大学院生の研究活動を支援した。 						A
	No. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体が実施する研究助成制度等助成情報について大学院生に大学ホームページ等で情報提供を行う。 							
	No. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の学術誌への論文投稿、学会・研究会での発表などを支援する。 							
	No. 23	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生のTA（ティーチング・アシスタント）などの雇用や、学内外の競争的資金の活用により、大学院生の研究活動を支援する。 							

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
ウ 成績評価など	No. 24	<p>ウ 成績評価等 ・ディプロマ・ポリシーで定めている知識・能力を学生に身につけさせるため、授業内容、到達目標、成績評価基準、授業計画等を明示したシラバスを充実させ、厳正な成績評価を実施する。</p> <p>なお、大学院においては、まずはディプロマ・ポリシーを作成し、学位の質を高める体制を強化する。</p>	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバス作成依頼時に、適切な記載方法のマニュアルを配布し、特に到達目標とそれを適切に測るための成績評価基準の設定等について具体的な案を示した。 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> GPA 計算対象である1年次生及び2年次生に通年及び学期毎のGPAを開示し、学修成果の変遷を確認し、自身の学修行動を振り返るための一助とした。また、教員も自身の担当するゼミの学生のGPAが確認できるようにシステムを改修し、履修指導等に活用した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のてびきにGPA制度について具体的に記載し、学部の成績優秀者の選抜に用いた。また、保健師国家試験受験資格取得や栄養教諭一種免許状取得の条件等にGPAの数値を示した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 試験の実施方法及び成績評価基準を再確認することで、厳正かつ公正な成績評価を実施した。その結果、厳正なGPA数値を用いて成績優秀者奨学金の対象者を決定することができた。 <p>また、人間文化学部の教職課程履修要件としてGPAの数値を用いた。</p>						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
(3) 教育の質を高めるための取組み ア 教育の質及び教育環境の向	No. 25	ア 教育の質の向上への取組 ・教育効果の測定・分析を通じて教育内容・方法の改善を図り、実質的FD活動を推進する。	[判断理由] ・各キャンパスにおいて、学生による授業アンケート、教員によるフィードバック、FD年報の作成を実施した。						
	No. 26	・山陰地区FD連絡協議会を核としてFDの大学間連携を進める。	・全学の新任教職員研修を実施し、該当教員と該当職員が参加した。また、全学FDセンターとして、鳥取大学で開催された中国・四国地区大学教育研究会へ教員3名が参加し、中四国地区の国公立大学とFD活動の大学間連携に努めた。さらにFDセンター長は、島根大学教育・学生支援機構教育開発センターを訪問し、本学FDセンターとの授業改善等にかかる定期的な意見交換会を開催した。						
	No. 27	・授業公開、学外の第三者の意見聴取等を実施する	・「授業公開」を春学期・秋学期とも実施し、教育の質向上・発展に取り組んだ。 ・年度計画に従い全専任教員による全授業を対象とした授業公開(一か月間)を実施した。見学者が提出する「授業見学報告書」は8割以上の教員から提出された。また、授業公開を振り返る内容の連絡会を実施し8割以上の教員の参加を得た。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
(3) 教育の質を高めるための取組み ア 教育の質及び教育環境の向上	No. 28	イ 教育環境の向上への取組 ・情報化に対応した教育施設を充実させるなど、時代に適合した新しい教育環境を整備する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同作業用の機能である「Office365 グループ」について、平成 31 年度の運用開始に向け、利用環境を整備した。 キャンパスごとに定めていたネットワーク名を全学で「kendai」に統一し、他キャンパスに行っても無線 LAN 経由でインターネットが利用できる環境に改善した。 						A
	No. 29	・ラーニングコミュニティ等多様な研究・学習支援機能の充実、電子図書館的機能の対応強化など図書館像の変化に対応した機能の充実やサービスの向上を図る。							
			<ul style="list-style-type: none"> データベース・電子ジャーナルのサービス環境改善について。買い切りデータベース AAS Historical Periodicals Collection, Series 1-5 を購入した。 図書館システム更新については、以下の通り実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○提案協議による審査が完了し、導入製品 (LIMEDIO) が決定した。現行システムは大規模館向けで操作が煩雑であったが、次期システムは全国の大学シェア 1 位の中規模館向けのものであり、シンプルでスピーディな業務遂行が見込まれる。 ○システム更新のたびに懸案事項となる「複数館でのバーコード (資料番号) 重複」の問題は、従来のような高額なカスタマイズによってではなく、バーコードの付け替えを計画的に行うことで恒久解決した。 データベース・電子ジャーナルのサービス環境改善については、以下の通り実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○安価かつ年度ごとの契約が不要な買い切りデータベース AAS Historical Periodicals Collection, Series 1-5 (17 世紀末から 20 世紀初までの北米の歴史・宗教・文学・文化・生活・風俗に関する雑誌アーカイブ) を導入した。 ○共同利用の制御が複雑な日経新聞電子版の代わりに、日経テレコンの固定料金制を導入し、通信量を気にせずに利用できる環境を整えた。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
<p>(4) 学生支援の充実</p> <p>ア 学生の安全安心確保のための取組みを積極的に実施する</p> <p>イ 学生生活に対するきめ細かな支援を実施するとともに、心身の健康管理体制の充実を図る</p>	<p>No. 32</p>	<p>ア 学生生活への支援</p> <p>・学生が心身共に健康な大学生活が送れるように、保健管理センターと連携して健康管理面での支援を充実する。</p>	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席が続く学生について教員から情報提供を受け、学生と面談を行ったり、学生サポート室につなぐなどの対応を行った。 ・修学支援申請があった学生について、学生相談室運営委員会を毎月1回開催し、障がいのある学生支援会議とともに別室受験や試験時間の延長等具体的な支援策を検討し、対応した。卒業を控えた障がいのある学生について、就労移行支援をキャリア支援室と連携して行った。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ担当教員や担任教員による相談に加え、オフィスアワー制度を設けて学生生活について適切な助言等を行った。カウンセラーが月2回来校して希望学生に対してカウンセリングを実施した。学生生活委員会と保健管理センターが情報を共有して連携を図った。 ・教職員を対象とした意見交換会を春学期、秋学期に2回ずつ実施し、意見交換を行った。 ・学生が抱えるさまざまな問題に対して気軽に相談ができるよう、チューター制を継続し、保健管理センターや関係部門と緊密な連携を図りながら支援を行った。 						
	<p>No. 33</p>	<p>・学生のニーズを汲み取りその結果をフィードバックすることにより、学生生活への支援を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に実施した「学生生活調査ミニアンケート」の分析の結果、学年が上がるごとに経済的な問題を抱える学生が増えることから、授業料減免制度、経済支援奨学金制度、分納制度について、より広い周知を行うとともに、アルバイトをする学生に対して、労働者の権利について周知した。また、大学施設に関して、大学から寮までの道が暗いとの意見があり、街灯の点灯時間を延長し、夜間の学生通行に配慮した。 						
	<p>No. 34</p>	<p>・障がいのある学生が支障なく学生生活を送ることができるよう支援の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある学生（個別支援チームを5名の学生に対して編成）に対して、障がい学生支援委員会、個別支援チームおよび関係の部署、学生生活委員会、保健管理委員会等間で定期的または必要に応じて情報共有の場を設けた。また、障がいのある学生をはじめ、支援を必要とする学生に対して、関係部署が連携して継続的支援を行い、当該学生の学生生活を見守った。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価																											
			年度評価結果																																	
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A																											
			-	-	-	-	-	-																												
ウ 就職に対するきめ細かな支援を実施するとともに、卒業生に対しても、キャリアアップ・Uターン支援などを行う	No. 35	イ キャリア支援 ・各キャンパスキャリアセンターを中心として、学生の個性と希望を踏まえた上で、民間企業就職に対しては産業界等の社会的ニーズに、公務員就職に対しては、行政実務に関連した科目履修に、それぞれ留意しつつ、キャリア支援プログラムを実施し、学生の進路決定を支援する。	[判断理由] ・キャリア支援プログラムマップを各キャンパスで共有し、必要に応じて連携して実施した。 （例）模擬面接への面接官の派遣、グループディスカッション講座の共同開催 ・企業の採用動向の把握や求人情報の掘り起こしのため、積極的に企業と大学との情報交換会へ参加した。 ・企業から「主体性」「働きかけ力」といった人間力を求める声があることから、講義形式ではなくアクティブラーニング型のプログラムを実施した。 ・「公僕学舎」を学習の場としての機能のほかに、公務員として働き暮らすことへの動機づけを深めるプログラムを実施した。																																	
	No. 36	・県、関係団体、産業界、同窓会組織などとの連携を強化し、就職先の安定的確保及び新規開拓を図る。	<p>・企業と大学との情報交換会等に積極的に参加し、採用動向やOB情報の把握に努めた。</p> <p>・島根大学等と実施する「しまね大交流会」の開催や県内企業と連携したインターンシップの充実等により県内就職率の向上に努めたが、過去の県内高校生の入学率減少の影響により、浜田キャンパスのH30 年度において県内就職者の割合が20%を割り込む結果となった。</p> <p>各キャンパスごとの県内就職率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>浜田キャンパス</td> <td>27.7</td> <td>23.7</td> <td>25.2</td> <td>23.0</td> <td>31.8</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>出雲キャンパス</td> <td>58.9</td> <td>64.0</td> <td>62.0</td> <td>51.2</td> <td>49.4</td> <td>48.5</td> </tr> <tr> <td>松江キャンパス</td> <td>75.0</td> <td>66.7</td> <td>68.6</td> <td>69.7</td> <td>69.1</td> <td>68.5</td> </tr> </tbody> </table>							H25	H26	H27	H28	H29	H30	浜田キャンパス	27.7	23.7	25.2	23.0	31.8	19.6	出雲キャンパス	58.9	64.0	62.0	51.2	49.4	48.5	松江キャンパス	75.0	66.7	68.6	69.7	69.1	68.5
		H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
浜田キャンパス	27.7	23.7	25.2	23.0	31.8	19.6																														
出雲キャンパス	58.9	64.0	62.0	51.2	49.4	48.5																														
松江キャンパス	75.0	66.7	68.6	69.7	69.1	68.5																														
No. 37	・就職後のキャリアアップ、離職防止のための教育支援等を行う。	<p>【浜田キャンパス】</p> <p>・同窓会各支部総会の開催をサポートしたり、しまねU・Iターンフェア（ジョブカフェ主催）などのイベント情報を同窓会事務局フェイスブックで呼びかけるなど、卒業生同士の交流を深める場を提供した。</p> <p>【松江キャンパス】</p> <p>・松江キャンパスでは、卒業生からゼミ担当教員への再就職希望の相談があり、キャリアセンター職員との連携を図るとともに、適切な学外就労支援機関を紹介した。</p> <p>【出雲キャンパス】</p> <p>・就職先の病院の取り組みとして、卒業生・修了生から「一緒に働きませんか？」という内容の在校生への就職勧奨があり、相談窓口担当者を中心に在校生にPRを行った。</p>																																		

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
エ 大学院進学、海外留学など、進学に対する支援を実施する。	No. 38	ウ 進学等の支援 ・大学院進学、編入学、海外留学に関するきめこまかな情報提供を実施する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院募集要項、海外留学に関する情報を入手次第、整理し、キャリアサポートルームに張り出し、配架を行った。また、大学院進学に係る相談を行った。 ・海外留学については、保護者進路懇談会にて国際交流センターブースを設置し、保護者及び学生に情報提供を行った。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
<p>オ 学生の国家試験などの合格や各種資格取得を支援する体制の充実を図る。</p> <p>カ 給付型奨学金制度、授業料減免制度及び金融機関とタイアップした授業料奨学融資制度などを実施する。</p>	<p>No. 39</p> <p>No. 40</p>	<p>エ 経済的な支援・資格取得を総合的に支援する。</p> <p>・平成 24 年度新入生から適用の学内奨学金制度の適切な運用や外部奨学金獲得の支援等により、学生が就学しやすい経済面からの環境づくりを行う。</p>	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得助成を行った。 ・宅建の WEB 講座の斡旋や FP 試験対策講座等を実施した。 ・WEB 版国家試験対策用総合データベースは教員が利用できる環境を維持することで、国家試験への対応が効率よくできる環境を整えた。また、外部講師を招いた短期セミナー等の開催を夏、冬の 2 回開催した。この他、模擬試験の実施、出願オリエンテーションの開講などの支援を行った。 <p>【3 キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済支援奨学金制度について、春学期授業料未納により奨学金制度を受けられない学生を救済するために、授業料分納制度の見直しを行い、妥当性を検討したうえで、平成 31 年度から実施することとした。 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活調査ミニアンケートの結果により、経済的に苦しい学生が多いことから、説明会で授業料減免制度、分納制度について、広く周知した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生に対して、大学案内や選抜要項への記載、オープンキャンパス、高校への出張説明会等の機を捉えて説明を行い、学内奨学金について入学前から積極的な情報提供を行った。 また、在学生に対しては、学内奨学金制度、自治体及び病院奨学金の募集について積極的な情報提供を行った。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生に対して、大学案内や選抜要項への記載、オープンキャンパスでの説明等により、学内奨学金について入学前から積極的な情報提供を行った。新入生・在学生に対しては、年度当初のオリエンテーションで奨学金制度について周知するとともに、説明会実施時には一斉メールでの周知を行った。また、随時掲示版での情報提供を行い、学生が修学しやすい経済面からの環境づくりを支援した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
ク 同窓会などの卒業生組織との連携強化を図る。	No. 43	カ 卒業生組織との連携 ・同窓会 web システム、ソーシャルネットワークサービスやメーリングリストの活用、学内講座への卒業生招聘、共催イベントの実施等により同窓会組織との連携を強化する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成Ⅰ、キャリア形成Ⅱで、OB/OG を招き講演いただき、授業後に、講師となった OB/OG による相談会を行い、就職活動を控えた 3 年生が訪れた。 ・就職活動中の学生からの OB/OG 相談を実施した。 ・大学の学園祭において、同窓会ブースを出展し、卒業生と在學生との交流・対話の機会を提供した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生と在學生の交流会をキャリアプラン講座の中で実施した。在學生が自己のキャリア形成や就職先を考える機会となった。 ・卒業生・修了生フォローアップ交流会（ホームカミングデイ）を実施し、卒業生・修了生・教職員で交流を行った。教員から、大学に新設された大学院博士後期課程や認定看護師教育課程等の紹介を行った。そこでは、島根県の健康課題を深く理解し、保健・医療・福祉の質の向上に向けて、地域医療を牽引する優れた看護実践者を育成するという本学の人材育成の方針を説明し、卒業生のキャリア形成の参考になる場となった。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会（松苑会）との連携については、同会が学内に事務局を設け毎木曜日に執務していることから、頻繁に情報交換を図り、ホームカミングデー、大学祭、松江キャンパス後援会寄付による同窓会館建設における相談など、多方面にわたり連携を行った。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
2. 研究 (1) 目指すべき研究及び研究の成果の活用 ア 目指す研究	No. 44	ア 目指す研究 ・北東アジア学の創成にむけた総合的な研究を実施する。	[判断理由] ・北東アジア地域研究センターは、研究会組織を維持し日韓・日朝交流史研究会、北東アジア研究会、西周研究会の集会を開催し、開催概要をホームページ等に公開した。 ・西周研究にかかる津和野町との協力協定に基づき、津和野町と共催でシンポジウムを開催した。						A
No. 45	・人間諸科学の観点に立って、特色ある地域資源にも着目した自然・社会・人間・文化に関する専門的な研究を推進する。	・浜田キャンパスにおいては、新西周全集の編纂のため、編集委員会の開催や研究の基礎資料の提供などを行った。 ・松江キャンパスにおいては、競争的研究費の公募情報の収集・学内周知、科研費学内説明会の開催等により積極的な申請を促し、しまね地域共生センターを窓口として、松江キャンパス独自の専門研究を推進した。							
No. 46	・自治体や地域協力者とともに地域貢献に関する共同研究を実施する。	・浜田市、益田市から委託を受けて共同研究を実施し、研究成果発表を「大学COC事業 全域フォーラム」や「KENDAI 縁結びフォーラム」のプログラムに組み込んで実施した。 ・平成30年度は新たに、島根あさひ社会復帰促進センターとの共同研究（1件）や島根県西部県民センター学生石見地域研究（5件）、島根県水産技術センター（1件）にも取り組んだ。							

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			-	-	-	-	-	-	
イ 研究成果の評価 及び活用	No. 47	イ 研究成果の評価 及び活用 ・研究成果を国内 外へ多様な媒体で 公表するとともに、 地域に還元する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北東アジア地域研究センターでは、所属する研究員により、論文、書評、学会報告、研究発表、出版（単著、共著）など様々な形で研究成果を公表した。 ・NEAR センター研究員が市民研究員の研究を側面支援するとともに、研究成果は広く地域に公開した。 (大学院生と市民研究員の共同研究制度の活用、交流懇談の集い、市民研究員全体会、市民研究員研究会 など) ・北東アジア地域研究センター研究員は共同研究を側面支援し、研究成果は全体会・研究会で報告された。 ・教員に『総合政策論叢』への投稿を呼びかけ、年2回の発行をした。また、学外講師による特別講演会を年2回開催し、地域住民に公開した。 ・出雲キャンパスにおいては、研究成果は、学会等での発表の他、研究紀要等へ投稿した。また、公開講座、出前講座などを通して地域に還元した。 ・松江キャンパスにおいては、研究成果を「研究連携協議会」や「地域研究と教育」の刊行、本学公式HPへの掲載等を通じ、広く学内外へ公表するとともに、公開講座（椿の道アカデミー）等により地域への還元を図った。 						
	No. 48	・教員の成果を 実用化する取り組み を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲キャンパスにおいては、NPO法人 21 世紀出雲産業支援センターと出雲市が共催する「いずも産業未来博」に出展し、研究成果の発表やキャンパスのPRを行った。 ・松江キャンパスにおいては、各研究費の応募について随時情報収集及び情報提供を行い、また、科研費学内説明会を開催し、科研費の応募増につながった。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
(2) 研究実施体制 などの充実	No. 49	ア 学内における 研究体制の整備 ・北東アジアにお ける知的共同体の 拠点形成を目指 し、北東アジア地 域研究センター (NEARセンター) の研究機能を充実 させる。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史・文化・思想」部門、「政治・経済・国際」、「北東アジア超域」の3つの研究ユニットを基に、「北東アジア研究会」「日韓・日朝交流史研究会」「西周研究会」を組織し研究に取り組んだ。 <p>近年の主な活動は次のとおり。</p> <p>【日韓・日朝交流史研究会】 H25：4回、H26：4回、H27：4回、H28：4回、H29：3回、H30：5回</p> <p>【北東アジア研究会】 H25：7回、H26：9回、H27：7回、H28：7回、H29：6回、H30：7回</p> <p>【西周研究会】 H25：1回(シボ^o参加)、H26：1回(シボ^o参加)、H27：1回(シボ^o参加)、 H28：1回、H29：1、H30：1回</p>						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
(2) 研究実施体制 などの充実	No. 50	イ学外との連携による研究の推進 ・国内外の大学や研究機関等との研究を推進する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧 NEAR 財団寄附金を活用した共同研究プロジェクト事業において、学外研究者が参画する共同研究プロジェクトを採択し、共同研究体制による研究を行った。 ・北東アジア地域研究センターにおいては、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構及び他の研究拠点機関と連携して「北東アジア地域研究推進事業」を着実に実施した。【重点項目】 ・北東アジア地域研究センター内の各種研究会等に、北東アジア地域の研究者を招へいし、研究交流を促進した。 ・中国長春市の東北師範大学を訪問し、同大学歴史文化学院東亜研究院で開催された学術報告会において、NEAR センター研究員が報告した。 ・タタールスタン共和国科学アカデミー歴史研究所と国際会議を共催し、NEAR センター研究員が参加した。 ・東北師範大学から 13 名（教員 2 名、学生 11 名）の来学があり、本学院生と合同発表会を開催した。（H30） ・富山大学極東地域研究センター、東北大学東北アジア研究センターが主催するシンポジウムにおいて、NEAR センター研究員が報告した。 ・「北東アジアの環境問題」総括シンポジウムを開催し、韓国高麗大学校グローバル日本研究院の金暎根教授が討論者として参加した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
<p>(3) 研究費の配分及び外部競争的資金の導入</p> <p>ア 教員研究費は、公正な評価に基づいて配分する。</p>	No. 51	<p>ア公正な評価に基づく配分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研究費については、競争的資金を増加させるなど、教員へのインセンティブが働く制度を充実し、運用する。 	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内競争的資金(学術教育研究特別助成金)の公募において、外部資金申請に繋がる研究に対しては優先的に配分するなど、外部資金獲得の動機付けを行い、優先的採択を受けた研究者全員が外部資金(科学研究費助成事業)へ応募した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
イ 研究に関する競争的資金の導入を積極的に行う。	No. 52	イ外部競争的資金の導入 ・科学研究費補助金等外部資金の申請を増加させるため、外部資金に関する情報収集や円滑な申請業務を行う体制を整備する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田キャンパスにおいては、学内科研費公募説明会において、科研費制度や募集内容に関する説明を行い、研究者に対して科研費事業への応募を呼びかけた。 ・平成 30 年度より、新たに「科研費申請書個別支援サービス」を導入し、支援基準を満たした研究者 12 名（全学）の支援を行った。 ・出雲キャンパスにおいては、科研費の応募説明に合わせ、研究不正防止対策の内容も織り込んで説明会を開催した。また、学内で科研費アドバイザーを指名し、随時相談できる体制とした。 ・松江キャンパスにおいては、各種外部資金の取扱窓口をしまね地域共生センターに一元化し、公募情報の積極的な学内周知を図り、申請件数が大幅に増加した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
3. 地域貢献、国際交流 (1) 地域貢献の推進 ア 地域連携に関するコーディネート業務の実施	No. 53	ア 地域連携に関するコーディネート業務の実施 ・地域連携推進センターを中心に地域からの相談に対応する。	[判断理由] ・地域連携推進センター全学運営会議(年4回)を開催し、各キャンパスにおける地域との連携の在り方や課題共有を図った。 ・地域連携推進センターの教員(委員)等により、地域からの相談を受け付け、担当教員と学生と地域団体等との橋渡しや連携先自治体等関係団体との連絡調整を行った。自治体や地域のNPO法人とのボランティアに関する意見交換等を設定し、様々なニーズの把握に努め、学生のボランティアマッチングを行った。 ・地域からの相談については、随時学内に引き継いで連携を推進した。センター窓口への依頼元・依頼内容・経過・結果・最終担当者(学内)を記録し、確実に連携引き継ぎができるよう運営を行った。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A A
			-	-	-	-	-	-	
イ 民間団体などや行政との連携	No. 54	イ民間団体等や行政との連携 ・自治体、企業、団体、市民、NPOなどとの連携を促進する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度に始まった島根県立大学地（知）の拠点整備事業「縁結びプラットフォーム」は平成 29 度をもって終了したが、この間、本学における地域との連携による様々な活動は飛躍的に進展し、現在における学生の地域活動、地域での学習も大きく成長した。 特に、毎年度開催した「全域フォーラム」では島根県、地元自治体、関係団体、県内高等教育機関、一般企業、市民等が参加し、「しまね地域共育・共創研究報告会」「浜田市共同研究報告会」「益田市共同研究報告会」「学生研究発表会」等を実施した。これにより、主に下記のような成果があった。 <ul style="list-style-type: none"> □ 教職員、学生、地域の人が参加したことにより、大学と地域との連携強化につながった。 □ 浜田市や益田市との共同研究などにより、地域と連携する研究を一層充実することができた。 □ 教員や学生の研究成果をポスターセッション形式で発表し、多くの来場者との意見交換をすることができた。 「地域貢献日本一」を目指す本学としては、このCOC事業が終了したあとも、これらの地域連携活動を継続して実施していく。 地域連携推進センターの機能強化を検討し、実践力育成など地域教育の充実を図るという【重点項目】については、3 キャンパス合同科目である「しまね地域共生学入門」では講義中継により学生が島根県の課題を横断的に理解する機会を、また、浜田キャンパス、出雲キャンパスの合同科目である「地域課題総合理解」においては、合宿形式により議論や提案を行うことで、学生が地域課題やその解決策について学際的な知見を得る機会を提供することができた。 「しまね地域マイスター」の認定に必要な科目として、『しまね地域共生学入門』を春学期に開講し、浜田・出雲・松江キャンパスの必修科目として全 15 回を計画どおりに開講できた。 履修証明プログラムのうち、教員免許状更新講習を兼ねたプログラムについては、教職センターへ移管し、ノウハウを継承した。また、PCスキル講座を公開講座「椿の道アカデミー」の企画講座とし、成果を引き継いだ。 						A A
No. 55	・県や市町村、その他公的団体からの各種審議会、委員等への委員就任要請に協力する。	<p>【浜田キャンパス】</p> <p>国、県、市町村、その他公的団体からの各種審議会、委員等への委員就任要請に協力をしている。</p> <p>【出雲キャンパス】</p> <p>委員就任要請に対し、教育・研究に支障のない場合は積極的に協力しており、島根県の審議会委員等に 32 件、県内市町村審議会委員等に就任している。</p> <p>【松江キャンパス】</p> <p>島根県をはじめ県内市町村の審議会委員や、その他公的団体の委員等へ就任し、積極的に支援した。</p>							

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
ウ 県内教育研究機関などとの連携	No. 56	ウ県内教育研究機関等との連携 ・島根大学や「教育ネットワーク中国」会員校との単位互換制度を継続して実施することに加えて、大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソーシャルラーニングを強化する。	<p>[判断理由]</p> <p>・平成 25 年度から開設した専門科目「山陰地域フィールド体験学習」を引き続き開講し、島根大学等からの学生を受け入れ、他大学へ送り出しを行った。(平成 29 年度まで)</p> <p>「山陰地域フィールド体験学習」「地域社会体験」</p> <p>H25 : 26 名、H26 : 35 名、H27 : 13 名、H28 : 14 名、H29 : 11 名</p>						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
エ 県民への学習機会などの提供	No. 57	エ県民への学習機会等の提供 ・小中学校、高校、公民館、美術館その他地域の教育機関との連携を促進する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民への学習機会の提供を目的に、教育機関（小・中学校等）と様々な連携を図った。 ・学生による学習サポートの実施や部活動の交流練習 （本学学生による中学校部活動生徒との交流、公民館での小学生への学習支援指導等、年間を通して浜田高校や江津高校、浜田第一中学校、金城中学校、弥栄中学校の生徒に対する学習支援） ・大学見学の実施（中学校の生徒が浜田キャンパスを見学し、学生・職員と交流を図った。） ・小中学校学習支援の実施（浜田市内の小中学校に対して、本学学生による学習支援事業を実施した。） <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護栄養交流センターを窓口としてキャンパスツアーや出前講座などを実施した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江商業高校、湖南中学校と連携協定を結び、三者連携協議会を開催した。 ・乃木小学校、忌部小学校、忌部幼稚園、幼保園のぎ と五者連携協議会を開催し連携協定を結んだ。 ・松江市立女子高校との交流事業を実施した。 						
	No. 58	・県民のニーズに対応した公開講座、講演会、講習会等を開催する。	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民に対する学習機会の提供や生涯学習機能の充実を目的に、公開講座、出張講座等を開催した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に公開講座登録カードの提出を求め、一般向けの公開講座を実施した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江キャンパス 4 学科により客員教授講演会を開催した ・地域志向科目である「しまね文化論」を一般公開した。 						
	No. 12 再掲	・専門職向けのリカレント講座を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状更新講習を開設し、講座実施に当たり県教育庁及び島根大学と連携を取った広報を行った。また、島根県内看護職のためのキャリア支援事業を計画通り行い、受講者へのアンケートから高い評価を得た。 ・認定看護師教育課程の円滑な運営を行うために、学内教職員をメンバーとする運営会議を開催し、教育課程の計画・実施・評価を行った。 						
	N. 59	・図書館、体育館など施設の開放を実施する。また、おはなしレストラン・ライブラリーを含む図書館を「大学・学生と地域を繋ぐ場」と位置づけ、その機能の拡充・強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・公立図書館や県内高校等への図書の団体貸出を実施した。 ・しまね大交流会や一箱古本市等地域イベントへの出展・出店を実施した。 ・施設利用については、ホームページにより広報を行った。 ・おはなしレストラン・ライブラリーについては、読み聞かせイベントを開催した。また、一般の方が利用しやすいように行事毎に展示の変更を行うと共に、絵本、紙芝居など蔵書の充実も計画的に行った。 ・図書館では、公開講座「椿の道読書会」を開催するなど、地域住民が広く参加できる企画を実施した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
<p>(2) 国際交流の推進</p> <p>ア 海外の大学などとの交流</p>	<p>No. 60</p> <p>No. 61</p>	<p>ア海外の大学等との交流</p> <p>・共同研究、国際シンポジウムなどの学術交流や、交換留学、語学研修などの教育交流を通じて協定締結大学等との交流を促進する。</p> <p>・異文化交流プログラム等の海外短期研修プログラムを充実し、学生の参加を促進する。</p>	<p>[判断理由]</p> <p>(No.50 再掲)</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学で共通運用する「海外の大学等との包括協定・学生交流協定締結に関する手引き」に基づき、「内モンゴル工業大学」(中国)「大邱保健大学校」(韓国)との間で包括協定を締結。また、「アジア・パシフィック大学」(マレーシア)との間で包括協定及び学生交流協定を締結したほか、培材大学校、グリフィス大(調整中)との間で協定の更新を行った。 ・夏期研修では、中国、台湾、韓国、アメリカから短期留学生在が参加。日本語授業をはじめ、学外での市民交流、文化体験等に本学の学生サポーターが参加した。 ・冬期研修では中国、台湾、韓国から短期留学生在が参加。夏期研修同様、本学の学生サポーターが短期留学生との交流に参加した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セントラルワシントン大学で実施した語学研修には、人間文化学部、短期大学部の学生が参加した。 ・アジア文化研修(ラオス)の現地視察を実施し、現地の環境等考慮した研修内容を検討している。 <p>・「異文化理解研修ハンドブック」を作成し、1.2年生全員に配布し周知の強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海遊祭で「異文化理解研修フォトコンテスト」を行い、多くの人に研修を知ってもらえるようPRした。 ・異文化理解研修においては、カナダ研修において全日ホームステイを導入、韓国研修では新たにソウルでのホームステイを導入した。 <p>【浜田キャンパス：キャリアセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外企業研修タイコースを実施した。 ・課題解決型のワークとして、参加学生による2チームが「日本とタイの仕事コラボレーションの未来像」についてそれぞれ企画を立案し、タイの大学生やジェトロバンコク事務所長の前でプレゼンテーションを実施し、意見交換等を行った。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
イ 留学生の派遣と 受入れ	No. 62	イ留学生の派遣と 受入れ ・交流大学との交換留学協定の締結を推進するとともに、留学を行うための環境を整備する。また、交流大学とのダブル・ディグリープログラム協定に基づいた留学生の派遣と受入れを開始する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学で共通運用する「海外の大学等との包括協定・学生交流協定締結に関する手引き」に基づき、「内モンゴル工業大学」(中国)「大邱保健大学校」(韓国)との間で包括協定を締結。また、「アジア・パシフィック大学」(マレーシア)との間で包括協定及び学生交流協定を締結したほか、培材大学校、グリフィス大(調整中)との間で協定の更新を行った。 <p>【No. 60 再掲】</p>						
	No. 63	・海外留学、海外研修経験者を増やすために、留学や海外研修に関する情報を収集し、希望する学生に提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「Get Set Meeting」において留学経験者から体験談を報告した。 ・日常的な個別対応のために、メディアセンターのサポートデスクを設置した。 ・外部団体のパンフレットを積極的に取り寄せ設置した。また、留学説明会を実施した。 ・ランゲージパートナー制度の創設により、留学生と日本の学生との交流機会の提供及び言語を通じて日本人学生の海外留学への動機づけを図った。 ・希望者に「国際交流ガイドブック」「異文化理解研修ガイドブック」配布した。 ・異文化理解研修の様子をまとめたプロモーションビデオを作成し、相談ブースでPRした。 ・オープンキャンパスの国際交流相談ブースにて、在学留学生のサポートにより協定校に関する具体的な情報提供を行った。 ・保護者説明会において留学に関する相談に対応した。 						
	No. 64	・外国人留学生の受入れ体制を充実させ、外部奨学金獲得などの支援を通して経済的な支援を図り、留学生が修学しやすい環境作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の入寮枠の確保、消防訓練を実施した。また、入学前から留学生と学生サポーターが交流する機会を設け、留学生が日本の生活になじめるよう支援した。 ・留学生に対する支援内容等を記載した英語版パンフレットを作成し、海外大学訪問時、来学時に配付した。 ・「みんながつながる国際交流プロジェクト」事業の実施により、日本の学生と留学生が協働して企画・実施する国際交流事業を支援した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			-	-	-	-	-	-	
ウ 国際交流推進体制の整備	No. 65	ウ国際交流推進体制の整備 ・全学組織としての国際交流センター（仮称）を設置し、国際交流推進体制の強化を図る。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘱託助手（英語）を引き続き配置し体制強化を図った。 ・協定留学の全学化について、全学国際交流センターを中心に推進体制を協議し、2019年秋学期留学からの送り出しの体制を整備した。 ・在学留学生と全キャンパスの学生との交流促進を目的に「やぶさめツアー」「松江城ツアー」「たたらツアー」等を企画、実施した。 ・日本語・日本文化研修（夏期）において、松江キャンパスの学生と留学生との交流の場として松江市内ツアーを実施し成果発表を行った。また、出雲キャンパスの学生とは、留学生との昼食交流や出雲大社散策を企画実施した。 ・全学合同事業のグローバル ドリーム ハントにおいて各キャンパスの採択者を集めて合同事前研修を開催、全学の学生同士の交流を促進した。 ・外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシプロジェクト」の派遣学生を全学で募集し、合同事前研修によりキャンパスを超えて派遣学生相互の結束を図った。 ・イーストカロライナ大主催のビデオ会議システムを各キャンパスで活用し、県大生と世界各国の大学生とのバーチャル交流を促進した。 ・しまね大交流会にて「国際交流センター」ブースを出展、全学で展開するグローバルドリームハントの取組をPRした。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3.5	4	4	
イ 効率的・合理的な運営を維持するため、事務組織を適宜見直し、その機能を充実強化する。	No.68	イ 事務組織の機能強化、効率化 ・業務実施体制の確保及び見直しに応じた柔軟な事務組織の見直し及び強化を行う。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江・出雲キャンパスの平成30年4月新学部設置等に対応するため、必要な人員を配置し、事務局組織の強化を図った。 また、法人職員の個々の適正等を踏まえた人事異動を実施した。 ・法人が直面する諸課題等の状況を踏まえ、組織の見直しについて、今後も継続的に検討していくこととした。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			No.69	4	4	4	4	4	
No.70	4	4	4	4	4	-			
No.71	4	4	4	4	4	4			
(2) 人事管理の適正化 ア 教職員数の適正管理	No. 69	ア 教職員数の適正管理 ・教職員数の中長期的な管理計画を策定し、年齢や職格のバランスに留意した教職員配置を行う。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員について、職格の適正なバランス等を考慮し、昇任者数を決定した。 ・職員について、能力・経験に応じて昇任を実施した <p>・県派遣職員の引き揚げを計画的に実施し、法人一般職員を計画的に採用した。</p> <p>H25 新規採用 2 名、H26 新規採用 3 名＋経験者 1 名(情報システム)、 H27 新規採用 3 名、H27 中途採用 3 名(新学部設置準備)、 H28 新規採用 2 名 H29 新規採用 2 名、H30 新規採用 2 名</p> <p>・別科助産学専攻の助産学実習（9月～11月）において、県内9カ所に分散する実習場所で学生に適切な指導ができるよう、各教員を補助する助手を雇用し、教育内容の確保を図った。</p>						
No. 70	・事務局職員については、将来の大学事務局体制を見据え、県からの派遣職員及び法人プロパー職員の適切な配置を行うとともに、大学運営の専門能力を有する者などを対象に計画的な採用や養成を行う。								
No. 71	・講義等の編成上特に必要と定める者について、任期を定めた教員を雇用する。								

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3	4	4	
イ 業務実績が適切に処遇に反映される制度	No. 72	イ 業務実績が適切に処遇に反映される制度 ・教員評価制度を適切に運用する。	<p>[判断理由]</p> <p>・教員個人評価制度について、H28 年度に行った様式変更・記入の簡素化を検証し、概ね実施要領に定めるスケジュールどおりに実施した。</p>						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			No.73	4	4	4	3	4	
No.74	4	4	4	4	4	4			
ウ 事務職員の人材育成	No. 73	ウ 事務職員の人材育成 ・事務職員の人事評価制度の導入について研究する。	[判断理由] ・公立大学協会加入大学のメーリングリストを用いて照会をかけ、50の大学から事例収集した。(H25) ・収集した他大学の事例の分析を行い、県の人事評価制度の資料を収集した。(H26～H28) ・他大学の人事評価制度を調査した結果、業務負担が増えるという等の課題もあるため、従前からの「勤務実績評定制」と「職員面談」を継続することとした。(H29)						A
No. 74	・職員の資質と教育現場に関わる者としての意識の向上を図るために、法人及び大学運営、財務等について適切な研修を実施する。	・新規採用職員に対して、4月に「新規採用職員研修」を2日間の日程で実施した。 ・「採用2年目研修」として、公立大学協会主催の研修に参加した。 ・公立大学協会主催の「中堅職員研修」へ参加した。 ・島根県主催の広報専門研修に職員が参加した。 ・成蹊大学との事務職員交流研修を実施した。 ・島根県自治研修所主催の各種研修に複数の職員が参加した。							

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	4	4	4.3	
2. 財務内容の改善による経営基盤の強化 (1) 自己財源の充実 ア 外部資金の獲得	No. 75	ア 外部資金の獲得 ・研究及び教育支援に関する競争的資金の獲得に向けた体制を整備し、取組を強化する。	[判断理由] (No.52 再掲) ・浜田キャンパスにおいては、学内科研費公募説明会において、科研費制度や募集内容に関する説明を行い、研究者に対して科研費事業への応募を呼びかけた。 ・平成 30 年度より、新たに「科研費申請書個別支援サービス」を導入し、支援基準を満たした研究者 12 名（全学）の支援を行った。 ・出雲キャンパスにおいては、科研費の応募説明に合わせ、研究不正防止対策の内容も織り込んで説明会を開催した。また、学内で科研費アドバイザーを指名し、随時相談できる体制とした。 ・松江キャンパスにおいては、各種外部資金の取扱窓口をしまね地域共生センターに一元化し、公募情報の積極的な学内周知を図り、申請件数が大幅に増加した。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			No.76	4	4	4	4	4	
No.77	4	4	4	4	4	-			
No.78	4	4	4	4	4	4			
イ 学生納付金などの適切な設定等	No. 76	イ 学生納付金等の適切な設定等 ・法人の経営状況、大学を取り巻く環境等を慎重に検討し、学生納付金等の合理的な額を設定する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学への聞き取り調査を実施したほか、公立大学事務局長会議等を活用し、近隣大学の状況を把握した結果、現状が適切と判断した。 ・大学開放施設の利用をホームページ等で周知を行い、使用者の確保に繋がった。 ・施設貸し出しにあたっては、可能な限り利用者の利便に沿うよう柔軟な運用に努めた。 ・年間の広報計画を策定の上、ホームページ・広報誌等を活用した積極的な広報を実施した。 ・法人と一定の取引実績のある団体に対して、各キャンパスの職員が担当して訪問し、寄附金収入増加のための広報に努めた。 						A
No. 77	・学外者の施設使用料等を適切に設定する。								
No. 78	・寄附金その他の収入の増加に向けた取組を実施する。								

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3	3	4	
ウ 資産の運用管理 の改善	No. 79	ウ 資産の運用管理 の改善 ・金融資産、知的 財産、貸付不動産 等の効率的な運 用、適正な管理及 び有効活用を実施 する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の資金繰りシミュレーションを行い、運用可能な金額については、利率引き合いの上で定期預金による運用を実施した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4.5	4	4	4	
(2) 経費の抑制	No.80	(2) 経費の抑制 ・契約の合理化、 集約化、複数年化 等による経費の節 減を実施する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な財務シミュレーションを作成し、今後の財務運営の検討を行った。 ・事務事業の見直しにより、課題の検討・整理を行い、予算編成に反映させた。(研究費、経済支援奨学金) ・電気料について、合見積の実施により契約単価の引き下げを実現した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	4	4	4	
(3) 監査体制の充実	No. 81	(3) 監査体制の充実 ・内部監査、会計監査人監査及び監事監査の実施を通じ、監査体制を充実する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計監査人監査及び監事監査を受け、内部監査も実施した。 ・効率的に内部監査を実施するため、「内部監査人監査」と「研究費に関する内部監査」を同一監査人による同一時期実施とした。 ・会計監査人及び監事から提案のあった簿外現金を含めた預り金の取扱いについて内部監査を実施し、平成31年度以降、適切な取扱いがなされるよう規程等の整備を行った。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3	4	4	
V. 評価制度の充実及び情報公開の推進 1. 評価制度の充実 (1) 組織を対象とした評価制度 ア 法人を対象とした評価制度	No. 82	ア 島根県公立大学法人評価委員会の評価 ・島根県公立大学法人評価委員会による評価を法人及び大学運営の改善に反映する。	[判断理由] ・遅れている点(課題がある点)として評価されたことを踏まえて大学運営の改善に繋げた。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	-	4	4.5	
イ 大学を対象とした評価制度	No.83	イ 自己点検・評価及び認証評価 ・自己点検・評価及び認証評価機関による評価を法人運営並びに大学運営に反映させる。	<p>[判断理由]</p> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）結果において努力課題とされた項目について、早期に対応が可能な項目について改善策を講じ、時間をかけた検討が必要な項目は改善策の検討を進めた。 <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人大学基準協会に対して、大学評価（認証評価）に係る努力課題とされた項目について、改善策を講じた。 <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人大学基準協会に対して、大学評価（認証評価）に係る努力課題への対応及び改善報告書を提出した。 <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画なし <p>【H29】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人大学基準協会に、3月末、自己点検・評価報告書を提出した。 <p>【H30】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度受審の短期大学部認証評価について、認証評価機関（大学基準協会）の事前質問、10月25日、26日の実地調査において適切・的確に対応した。 ・特に実地調査では、学生インタビューを通じ、学生の確保や入学後の教育について評価された。 ・12月20日付で「短期大学認証評価結果（委員会案）」の送付を受けたが、評定のある基準項目は全て「A」、長所として特記すべき事項が3項目あった。「努力課題」「改善勧告」は無く、短期大学基準に適合していると認定される見込みである。（認定証は3月に送付される予定） ・評価で重視される内部質保証について、既存の組織体制の強化や質保証の取組みの充実を図るという重点項目について、既存の組織体制の強化及び新組織を設置し、内部質保証の取組みの充実に努めた。 ・大学（四年制）においては、平成 31 年度の認証評価を受けるため、H30 年度に自己点検・評価を行った。また、評価で重視される内部質保証について、既存の組織体制の強化及び新組織を設置し、内部質保証の取組みの充実を努めた。【重点項目】 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3	4	4	
イ 大学を対象とした評価制度	No. 84	ウ 利害関係者（ステークホルダー）の評価 ・学生、保護者、県民等の意見及び評価を法人運営並びに大学運営に反映させる。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生とは日常業務の中で意見要望を聞き、教育環境の改善につなげた。 ・大学支援協議会との定期会合、市民研究員制度、ソーシャルラーニング事業の外部評価委員会、ステークホルダー訪問など様々な機会を通して地域住民との意見交換を行った。 ・「学生しゃべり場」を開催し、学生との意見交換会を行った。 ・保護者懇談会を開催し、出された意見を教職員で情報共有するとともに、提案事項を実践した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			No.73 (再掲)	4	4	4	3	4	
No.74 (再掲)	4	4	4	3	4	4			
(2) 個人を対象とした評価制度	No. 72 再掲 No. 73 再掲	(2) 個人を対象とした評価制度 ・教員評価制度を適切に運営する。 ・事務職員の人事評価制度の導入について研究する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員個人評価制度について、H28 年度に行った様式変更・記入の簡素化を検証し、概ね実施要領に定めるスケジュールどおりに実施した。 ・公立大学協会加入大学のメーリングリストを用いて照会をかけ、50 の大学から事例収集した。(H25) ・収集した他大学の事例の分析を行い、県の人事評価制度の資料を収集した。(H26～H28) ・他大学の人事評価制度を調査した結果、業務負担が増えるという等の課題もあるため、従前からの「勤務実績評定制」と「職員面談」を継続することとした。(H29) 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			No.85	4	4	4	4	4	
No.86	4	4	4	4	4	4			
2. 情報公開の推進	No. 85	2 情報公開の推進 ・法人の経営・教育研究に関する情報、自己点検・評価、認証評価及び島根県公立大学法人評価委員会による評価結果とその改善策を公表する。	[判断理由] ・島根県公立大学法人評価委員会による評価結果およびその改善策をHPで公開した。						
	No. 86	・情報公開に関する規程に基づき、個人情報の保護に配慮しつつ、積極的な情報公開を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H25～27：情報公開請求なし。H28：情報公開請求1件に対し適切に公開した。H29：情報公開請求なし。 ・H30 情報公開請求3件に対し、非公開情報が存在したため、いずれも部分公開決定とした。 ・法人広報誌「オロリン」を発行（H25～）県内外に情報発信を行った。 ・学長定例記者会見を毎月1回開催し、会見後、記者会見資料をホームページに掲載（公表）した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4.25	4.25	4	4	4	3.8	
VI. その他業務運営に関する重要事項 1. 広報広聴活動の積極的な展開など	No. 87	(1) 戦略的な広報の実施 ・ホームページ、広報誌などの充実や様々な広報媒体の活用により、法人、大学情報を国内外に積極的に発信する。	[判断理由] ・大学情報の発信により、大学の見える化につなげるため、「地域と大学の交流誌」を新コンセプトに、誌面・制作方法（学生中心で制作）のリニューアルを実施した。 ・学生が地域に出かけ、制作過程から大学と地域がつながりを持つことで、地域の声・疑問を学生が直接拾いあげる仕組みを確立した。 ・山陰中央新報への広告掲出、日本海テレビ、山陰中央テレビにおいてテレビスポットCMを放送した。 ・大学案内、動画、リーフレット、ポスター、ノベルティ等を作成し、広報活動を行った。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	3.67	4	4	
VI. その他業務運営に関する重要事項 1. 広報広聴活動の積極的な展開など	No. 89	(3) 広聴活動の実施 ・幅広く県民等からの意見を聴き、法人、大学運営に反映する。	[判断理由] ・学生の意向を反映し、H31 年度からゼミローテーションの廃止を決定した。 ・大学支援協議会からの要望を受け、新学部学科設置等に向け「大学改革本部」を立ち上げた。(H29～) ・出雲キャンパスにおいては、H29 からキャンパスモニター会議を実施し、モニターと大学教職員で大学からの説明と意見交換を行った。看護栄養学部への期待、大学設備のバリアフリーへの要望、住民目線での大学運営(特に学生の安全確保)など活発な意見がでた。また、プラットフォーム会議を開催し、キャリア・看護研究支援部の事業に対する質問や、サテライトキャンパスを拠点にして行っている活動に対する意見を聞くことができた。 ・松江キャンパスでは、しまね大交流会において、キラキラドリームプロジェクト採択の団体、及び学生図書委員会が出展し、活動のPRを行った。また、本学からも学生が参加し、出展企業・行政・NPO等と交流を行った。						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	4	4	4	
2. 施設設備の維持、整備などの適切な実施	No. 90	2 施設設備の維持、整備等の適切な実施 ・施設設備の点検の適切な実施等、様々なリスクに対して適切に財産保全対策を実施する。	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の故障や異常の早期発見に努め、適宜、空調修繕工事や建物の防水部分の修繕工事等を行い、施設の長寿命化を図った。 ・松江キャンパスの新学部設置等に伴い必要となる施設整備等(※)について、計画的に整備を実施した。 <p>(※) 新棟(図書館棟 約 1,700 m²)の建設、3号棟の一部建てかえ・劣化改修</p>						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			No.91	4.5	4	4	4	4	
No.92	3.5	4	4	4	4	3			
3. 安全管理対策の推進	No. 91	3 安全管理対策の推進 ・健康管理や防犯に関する意識啓発、地域と連携した取り組みなど安全衛生管理対策や事故防止対策を適切に行い、学生等の安全安心を確保する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令に基づき、衛生委員会、衛生管理者、産業医を置き、安全衛生管理体制を運用した。 衛生委員会においてストレスチェック制度への対応に関して審議を行った。 職員や学生有志による防犯パトロール継続実施、新入生に対して浜田警察署により安心安全の意識啓発講演を実施した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業医、衛生管理者等を構成員とする衛生委員会を設置し、毎月一回委員会を開催し、教職員の健康管理等の安全衛生管理を行った。 春・秋と年2回のウォーキングプログラムを企画・実施し、教職員の健康管理に対する意識啓発を図った。 定期健診及びストレスチェックについて実施周知等受診率向上を図った。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令に基づいた安全衛生管理体制として、衛生委員会、衛生管理者、産業医を置き、毎月一回衛生委員会（衛生管理者、産業医等が構成員）を開催して教職員の健康管理等の安全衛生管理を行った。 時間外勤務が多い職員に対し面談を行う等のフォローアップを実施した。 学内定期健康診断未受診全員に対し、別日の日程調整を行い、受診率の向上を図った。 ストレスチェックを実施し、手順に基づき面接指導等のアフターフォローを行った。 						
	No. 92	・情報管理や個人情報保護、情報セキュリティポリシーの規程を適正に運用する。	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用職員研修や、日々の業務遂行において、個人情報保護の重要性について啓発した。 利用者教育、セキュリティ監査とともに、規程に沿って計画どおり行ったほか、H27年度監査指摘事項および文科省通知「公立大学等におけるセキュリティ対策の強化について」に対応するため、情報セキュリティ関連規程を改正した。 他の公立大学に先駆けて、情報セキュリティ対策基本計画を策定した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	4	4	4	
4. 危機管理体制の確保	No.93	4 危機管理体制の確保 ・危機管理マニュアルを基本として迅速・柔軟に対応できるよう、学長をトップとした危機管理に万全を期する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの寮の寮生を対象に、それぞれ避難訓練を実施した。また、事務職員による原子力防災訓練（情報伝達訓練）を実施した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学生教職員参加で火災避難訓練を、また1年次生を対象に救命救急研修及び護身術研修を実施し、防災意識啓発を図った。 ・学生寮は夜間を想定した火災避難訓練を行った。 ・新入生には入学時に「緊急時対応ポケットマニュアル」を配布し、マニュアルの携帯と緊急時の対応について説明した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しを行った。 ・学生には、「緊急連絡網・防犯護身術講習会」「安否確認訓練」「交通安全講習会」「ブラックバイトトラブル防止講習会」「マルチ商法トラブル防止講習会」を実施した。 ・大学所在地の自治会との共同防災避難訓練を実施し、松江市南消防署の指導の下、東日本大震災の事例報告と緊急時の対応について講習等を実施した。 						

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	A
			No.94	4	4	4	4	4	
No.95	4	4	4	4	4	4			
5. 人権の尊重	No.94	5 人権の尊重 ・教職員及び学生を対象にした人権に関する研修を実施する。	<p>[判断理由]</p> <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対しては、新入生オリエンテーション時に人権問題に関する研修を実施した。 ・教員、事務局職員に対し、それぞれ毎年1回、さまざまな人権問題に関する研修を実施した。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対しては、新入生オリエンテーション時に人権問題に関する研修を実施した ・教職員に対しては全教職員を対象として人権研修を実施した。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対しては、1年次生は新入生オリエンテーション時及び7月のキャンパス講習会において、2年次生については、履修ガイダンス時に人権問題に関する研修を実施した。 ・教職員は、上記のキャンパス講習会を受講した。 						A
No.95	・学内におけるハラスメント行為防止やその早期対応のため、相談体制を充実するとともに、苦情相談窓口や対応措置を学生や教職員に周知徹底する	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスハラスメントに関する苦情相談に対応するため、学生相談員、所属相談員を配置するとともに、「学生便覧」「学生相談のしおり」で学生・教職員に制度の周知を図った。 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスハラスメント防止委員会を設置し、学生相談員、所属相談員を配置して相談体制を整備すると共に、相談連絡窓口と相談の流れを「学習のてびき」等に明示して学生に制度の周知を図った。 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談に対応するため、学生相談員、所属相談員をそれぞれ複数名配置し、危機管理マニュアルにキャンパス・ハラスメントについて記載し周知した。また、学生に対しては、「学生相談のしおり」を配付することで周知を図った。 							

中期目標	中期計画 No.	中期計画	H25～H30 年度取組実績						自己評価
			年度評価結果						A
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	
			4	4	4	4	4	4	
6. 環境マネジメントシステムの構築・推進	No. 96	<p>6 環境マネジメントシステムの構築・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルに基づいた運用を行う。 	<p>[判断理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> 省エネ・節約を心掛け、消費エネルギーの削減を行った。 (例)・学生の授業環境に支障が出ない範囲で空調のスケジュール等を見直し <ul style="list-style-type: none"> 古いタイプの照明器具をLED化することで消費電力の削減を実施 空調機のファンベルト交換等のメンテナンスを実施し空調効率を改善 複数の電力会社に見積もりを依頼し、電力価格を引き下げた。 						